

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200172		
法人名	アコオビジネスコンサルティング株式会社		
事業所名	グループホームアコオ憩いの家 倉敷三田		
所在地	岡山県倉敷市三田124-1		
自己評価作成日	平成22年3月20日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/informatioPublic.do?JCD=3390200172&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 ライフサポート		
所在地	岡山市南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館		
訪問調査日	平成22年3月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

20代・30代の職員を中心に明るく、活気のある、創意工夫を取り入れた事業所である。特に職員一人ひとりの個性を活かし、チームワークを大切にしています。
利用者様との日々の関わりの中で「今日のこの時を思い存分生きる!」を大切にする為に、散歩は日課であり、外出・外食・イベントなど特に力を入れています。また、ボランティアで毎月地域の方が紙芝居やピアノ、アコーディオン演奏を行い楽しいひと時を一緒に過ごしています。
ハード面では、「心の癒しと長寿を願う」という開設者の思いを十分取り入れた造りにしています。京都をイメージした庭園・水琴窟、延命を願い延命地蔵を設置、ゆったりとした空間で疲れを癒すため光明石温泉の設備を完備しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

看護師としての仕事をしてきた管理者は、実母の介護の経験から介護の重要性をより強く意識し始め、介護施設を数多く手掛けてきた代表者と共にこのホームを立ち上げたと言う。3年の基礎固めの時期から飛躍の年を迎え、ここで業務や人事を一新して新たな出発をしようとしている所である。今日の日まで紆余曲折はあったようだが、志を同じくする職員が残り、理念を共有して「明るいパワー・笑い声が絶えないホーム」を目指している。そして、代表者の願い通り「利用者一人ひとりの思いや暮らし方・生活リズム」がとても大切にされている点、運営推進会議を軸として地域社会や家族と3年とは思えないほどの関係性が築かれている点等、高く評価したい。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき、職員個々の意識の向上に努めている。特に理念の中にある元気で明るい職場作りを日々実践している。	ホーム開設以来、事業所としての理念を常に念頭に置き、日常的に色々な場面で振り返ったり確認し合ったりしている。当面の目標は「家族会を開催する事」「日帰り旅行を実現する事」としている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域や町内の清掃活動やお祭りなど積極的に参加したり、また利用者との散歩の際町内の方と話しをするなど交流を深めている。	会社がこの三田地域に地盤があった事、利用者や職員にこの地域の人が居る事、その他多くの協力者も居て、早くもこのホームはここにしっかり根付いている。	地域住民や家族を巻き込んだイベントも次々と実施しており、地域交流は活発に行われているが、これらに加えて、保育園・幼稚園・小中学校等の子供達とのお付き合いも加えてみたい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員個々に合わせた認知症の研修参加を呼びかけていながら、職員の身の回りの知人・友人や地域の方の相談窓口を設けている。気軽に相談できる体制作りをしている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の町内会長、民生委員、ボランティアや利用者の家族、また市町村職員や地域包括センター、他事業所の職員に参加いただき意見や情報交換を行い、サービス向上に努めている。	市の担当者・地域の各委員代表者・家族その他多くの参加のもと、2ヶ月に1回充実した内容のある運営推進会議を実施している。この会の存在価値は大きく、今後もホームの運営や地域の福祉の拠点としての意義が広がっていくだろう。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	どんな小さな疑問でも連絡・相談を行い、疑問を即座に解決するようにしている。また運営推進会議の参加も市町村担当者の出席可能な日時を予め聞いて予定を立てるようにしている。	運営推進会議では関係職員がよく参加し、情報提供や良いアドバイスをしてくれている様子が会議録に見られる。日常的にも、何か解らない事や不安な事がある毎に、ホーム側から質問し、アドバイスを受けている。	玄関の施錠について、今後事業所全体として、また運営推進会議でも議題に取り上げてみてはどうか。可能な方法を探り、少しずつでもオープン化にチャレンジしてみたい。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束対策委員会を4月より設置し、各会議で報告連絡会を持ち、職員間の知識を高める努力をしている。玄関の施錠が身体拘束であるという事を職員個々が十分理解できるように話し合っている。	身体拘束禁止となるような具体的事例は、今までに一度もない。身体拘束及び虐待防止の担当委員を定め、今後研修を続ける予定にしている。玄関はホーム開設当時の利用者の状況によって施錠している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	4月より高齢者虐待防止委員会を設置している。委員長中心に報告会を推進したり、管理者や職員の意識を高めながら、リスクマネジメントを考え、何事も言い合える職場作りを目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当法人の成年後見制度に関する専門家により必要に応じて勉強会などの開催を予定し、知識の習得を行い活用できるよう心がけている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、必要に応じて利用者の自宅に訪問しゆっくり話しを聞くようにしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、入居者や家族の意見要望に迅速に対応できるよう事業所全体で取り組んでいる。意見・要望をより一層反映させる為に、現在家族会の開催を予定している。5月発足予定。	運営推進会議では「職員の名前と顔がわからない」という意見が家族から出て、入り口に提示する等対応しているし、日頃から家族の方から意見や要望をよく聞いている。家族会開催も今年度の目標にしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議や日頃の会話から情報を共有し、どんな疑問や要望にも代表者や管理者と一緒に考え反映させている。	事業所内の各種会議で職員からの意見をよく聞いている。管理者は職員からの相談によく耳を傾け、何かあったらその都度個人面接をしている。職員からも「よく意見を聞いてもらえている」という声も聞けた。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	経験年数や各資格を大切にはしているが、個々の努力や人柄を最優先に考えるようにしている。また、代表者は常に管理者や職員からの話を聞き、改善に努めている。年1回職員表彰実施。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護研修だけでなく、ビジネスマナーなどの研修にも参加させている。職員の力量に関しては各ユニット長と連携を取り、話をしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会などに積極的に参加し、名刺交換を行う中で管理者、職員個々に同業者との連絡を独自に行い交流を図れるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する前には、利用者本人と面会する機会を持ち、その情報を事業所全体で共有している。また担当者を利用者一人に必ず一人決めより細やかな配慮を心がけている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者の環境や状態の変化があれば即座に対応し家族への連絡も行っている。どんな悩みや要望にも誠意をもって対応できるように、日頃から家族とのコミュニケーションを大切にしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じて本人や家族と何度かお話しする機会を設け、事業所でのサービス利用が適切であるかどうか、介護支援専門員や職員とも十分協議し他のサービスも視野に入れて検討している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に買い物に行ったり、炊事を行うことで、コミュニケーションを取っている。また人生の先輩として尊敬や敬意の念を忘れず関係を築くよう心がけている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日頃の生活状況やホットニュースなどを、毎月一回家族へ担当職員や時には利用者本人が手紙を書いて送っている。家族との関係を重要視し援助している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	慣れ親しんだ家財道具を部屋に設置するなど生活環境を変えないように配慮している。友達に電話をしたり、慣れ親しんだ場所に行ったりしている。	ある利用者が住んでいた所へ何人かで連れ立って行き「こういう所に住んどったんじゃ」と話題が広がったり「家に帰りたい」等の希望にはできる限り添える様にしている。以前通っていた整骨院通いも支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲良しの利用者同士と一緒に入浴したり、職員のテーブルの配置などを考え、孤立しないように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	機会があればゆっくり話しをしたり、一緒に娯楽を楽しんだりしている。また、入院により退居になった場合、病院に寄る機会があればお見舞いに行くなど最後まで関係を大切にしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食べたいもの、外出、日中どのように過ごしたいか、食事や入浴についても本人本位で生活をしていただくように努めている。	このホームでは施設側の業務の流れをできる限り優先させないよう、生活リズムも一人ひとりの意向や暮らし方の希望を第一にと考えている。重度化した人に対しても、本人の意欲の方にしっかり目を向けてケアするようにしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前にあらゆる情報を、本人を取り巻くすべての人から聞き、職員全員が把握出来るように、カンファレンス等開催し徹底するよう心がけている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	残存能力を最大限に生かして、日々一人ひとりが有意義な生活が出来るように支援している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族と話し合い、個々の職員の感じた視点も取り入れながら、モニタリングを現状にあわせ行い介護計画を作成している。	ケアプラン見直しは利用者の状況に変化があれば随時、何もなければ1ヶ月・3ヶ月・6ヶ月で調整している。各種記録に、特に身体状況のチェックや変化を小まめにとらえ、カンファレンス等でケアプランにつないでいる。	本人や家族の意向記入欄に、職員の解釈ではなく「なまの言葉」があれば変化をつかみ易い。また、自立に近い利用者にはプラン作成に関わってもらうのも良いと思う。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に朝、日中、夜間の時間帯に分け記録をし、随時申し送りを行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームの特性を活かし1人1人の意見をしっかり聞き、柔軟な対応をしている。食事、入浴、睡眠など個々の利用者のニーズに対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個々に合わせた力を十分発揮するため、地域の活動に積極的に参加できるように努力している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	総合的な分野から本人に合った適切な医療を受けられるようにかかりつけ医を確保している。定期的な往診を行っている。	それぞれの診療科の協力医とは良い関係が築かれており、定期的な往診や夜間対応も可能である。往診・受診記録も見られた。個別のかかりつけ医の受診は原則として家族が付き添うようにしている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のバイタルチェックを定着化し、介護職員の中にも看護師を配置するなど、早期発見がスムーズに行えるように努力している。看護師三人体制で支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院医師と施設看護師が常に連絡を取り合い、介護職にも分かりやすく報告・連絡を行っている。また提携医療機関の医師が協力的で、どんな小さな疑問にも迅速に対応してくれている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化に関する事や終末期の事業所の方針などの説明を十分に行い、本人・家族等に承諾を得ている。利用者一人ひとりを支える為チームケアに取り組んでいる。最後まで支援出来るよう医療機関とも連携を取っている。	今までに一人看取った経験が有り、現在も重度化している人を看ている。今後も支援する方向で取り組む予定である。協力医の中には看取り期に対応してもらえるクリニックがあり安心できる。家族との話し合いや運営推進会議等に於いても話し合い理解を得ている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日々の状態観察や異変の早期発見は職員個々に異なるが、終始徹底は出来ている。今後は提携医療機関にも協力をお願いし、研修などの機会を増やしていく。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	4月末から5月の予定で昼・夜間を想定した避難訓練を地域に協力してもらい実施する予定。家族の参加も呼びかける。	ホーム開設以前より十分な配慮がなされており、2階からの外階段も設置されているしスプリンクラーも設置済みである。利用者も参加の避難訓練は4月末に実施予定で、地元の消防団や近隣住民の協力も得られる見込みと言う。	本人の意向を最優先させたいと願うこのホームの姿勢には感服しているが、「喫煙支援」については災害対策の面からも、今まで以上の厳重な規制と配慮を以ってあたってほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に尊敬の念を忘れず、利用者の目線にあった対応をしている。畏まった対応を嫌がる利用者にも柔軟な対応をしている。	ここでの暮らしは思いのままに、を大切にしている。「自分は居室中心に暮らしたい」という人もある。他の人に部屋に入られたくない人には職員も十分気を付けるようにしている。また、和歌の達人も居てその才能発揮の支援をする等、個々を尊重している。	90歳から始め、94歳の今もすばらしい歌を作り続けているAさんの後に続く人の発掘に努めて欲しい。それぞれに様々な力が残っているかもしれないし隠れているかもしれない。それを見付け表に出す事がその人の生きがいにつながる。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の目線やスピードに合わせるのではなく、本人の思いを聞き出す努力をしながら、自己決定を促す事に努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	いつでも利用者のペースを大切に、一人ひとりに合わせた時間や内容にしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床してから髭剃りを行ったり、色合いを考えた服を一緒に選んだりしている。また、化粧をしたり、口紅の色を一緒に考えたりしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を作る時の味見や皮むきを手伝ってもらったり、調理法を教えてもらったりしている。配膳当番や掃除係を作っている。残存能力を生かす為、清掃責任者を置く事も考えている。	ユニット毎の特性や個々の好みや調理の仕方にもよく気を配っている。意欲のある人には調理・片付け等の仕事をしてもらっている。希望で外食にも度々出掛けたり、ホットケーキ等のおやつ作りも楽しんでいる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分量や食事をトータルし、利用者個々に必要な摂取量を確保するよう心がけている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後や就寝前に口腔ケアを心がけている。事業所内に歯科衛生士を配備している。今後は提携歯科医院の協力により、正しい口腔ケアの技術を学んでいく予定。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表での管理をし、自力での排泄をうながしながら、便意・尿意のコントロールができるよう支援している。	自立の人も居るが少しの手助けがあればという人もいる。それぞれにふさわしい支援をしているが、職員の気配りと排泄チェックやパターンの把握で、改善が見られた人もある。おしめの使用は極力避けるようにしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜や果物を食事につけたり、水分摂取も大切にしている。また、便秘に良い食材をミキサーにかけジュースにしたりしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	温泉の雰囲気のあるお風呂を整備しており、個々に合わせた入浴時間を大切にしている。また、利用者同士やスタッフとの入浴も行っている。	代表者の拘りの一つでもある浴室は、1階を神経痛にも効くと言う光明石温泉にして坪庭も見える。2階は家庭のユニットバスで利用者は仲良しや職員と一緒に入る等、毎日のように楽しむ人もある。拒否の人にも職員の粘りと工夫で入ってもらっている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後に昼寝をしたり、本人の意思に応じた支援をしている。睡眠が少ない時には、日中散歩をするなど安眠対策をしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師からの処方を最初に看護師が把握し、介護職員に伝達をするようにしている。服用後の様子観察も十分行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日中のレクリエーションや外出を楽しみながら、好きな食べ物を一緒に買いに行ったりしている。夜食も一緒に食べたり、とても喜ばれている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望を家族に伝え、外出をお願いしている。天気の良い日は散歩に出かけている。外食や外出も頻回に行っている。	良い季節には近くの散歩道を毎日の様に歩いている。近所の人とおしゃべりやお茶をいただいで楽しむ事もある。行事での外出の他に、買い物や外食でのお出掛けも多い。これからの皆の希望で気軽に出掛けたいという。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	週に1度の移動パン販売で個人のお金で好きなパンを購入している。またお小遣い帳を一緒に見て話をしたりしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたり、手紙も自由に書いてやり取りしている。また、本人自らでは困難な場合も、職員の手紙と同封して送れるように支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング電球は柔らかい光電球に変え、トイレの清掃も頻回に行うようにしている。レイアウトも変え季節感がわかりやすいようにしている。各居室の壁紙を統一せずに変化を付けている。	介護施設を代表者が作り続けてきただけあって、様々な工夫や思い入れが見られる。中でも、リハビリにも使える柔らかな曲線のある庭や、日向ぼっこやバーベキュー、コーヒータムに寛げる長いウッドデッキは、このホームの自慢の共用空間である。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席順や向かい合う位置、テレビ好きな人への席の配置等工夫している。体調や気分の変化により居場所作りが出来るよう心がけている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔から使っている家財道具を持ち込んだり、写真や色紙などを置いて工夫している。希望に応じて畳敷きにしたりしている。	洋間も希望により畳を入れる事ができる。部屋毎に壁紙を変えてオリジナルなものにしてある。各人思い思いの部屋になっており、ピンク系の色の好きなAさんの部屋はパッと花が咲いたような気分にさせてくれる。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやリビングには字を大きくした張り紙を貼り、お風呂ものれんをつけ、居室にも名前を貼りわかりやすくなるように工夫している。		